

生きものも人も輪になる

水田トラスト米

～ 私たちにもできること～

水田トラスト米って？

山形県庄内三川町の生産者
庄内米の専門グループが
手塩にかけて育てた貴重なお米です。
化学肥料や除草剤を使わない
合鴨農法の、自然派くらぶだけの
有機栽培米です。

4 2001年～

米余りを反省し、1つの運動として
2001年「水田トラストの会」をスタート。
会員は田植え前に必要量を予約し、
生産者は必要分のお米を責任もって
生産する。
そして会員は予約したお米は責任を
もって食べる

生産者の思い

「つくる人」と「食べる人」の交流で
米づくりをやめようとした人が思い直した。
あの人が食べる米なのだから
いい加減なつくり方はできない。

ごはんがごちそう！

トラスト米を食べる事で
生産者と家族の健康と
自然環境保護に参加しています。
毎日のごはん作りに迷っても
トラスト米さえあれば「ごちそうに
早変わり〜^{々々}
会員 田口

おにぎり大好き！

うちの娘はトラスト米で
作った塩おにぎりが
大好きです。
娘のお友達にも大好評
「もっと食べたい〜！」
の音が嬉しいです。
会員 角田

「なつみずたんぼ」

麦やなたね等の収穫後の
圃場に水を張り連作障害を
防ぐ。
除草剤の交わぎにくい雑草の
防除にも効果がある。

トラスト米のふるさと・三川町対馬地区

- 町の面積、約3分の2を田んぼが占め、稲作中心です。
- 「有機栽培」や農薬を減らした「特別栽培」の面積が増えました。
特に「有機栽培」の取り組み割合は全国有数です。
- 「なつみずたんぼ」を活用し、生物保全にも取り組んでいます。

☆地域全体で田んぼに堆肥を入れる、有機栽培を行う。
「なつみずたんぼ」に取り組む等が総合的に評価され、
2016年、対馬地区の集落が
『美の里コンクール特別賞』を授賞しました！

3 1995年

生産者が配達トラックに便乗し、産直米の
消費拡大キャンペーンを行う。
1000名の組合員が出迎え、交流。
熱い語り合いと互いの励みになる場に。

2 1994年

1993年の大冷害で国産米が不足。
生協の産直米を求めて加入者が激増
しかし1994年の大豊作で市場に米が
あふれ、生協の産直米が大量に余る
事態に！

1 1987～

4名の生産者が農薬を半分に減らす、
堆肥を散布するという条件で栽培を
始める。堆肥を入れる事で土が
やわらかくなり有機質もなじむ。
→ミミズが増える。
1993年、生協を通して農家と組合員が
直接契約する特別栽培米制度を
始めました。

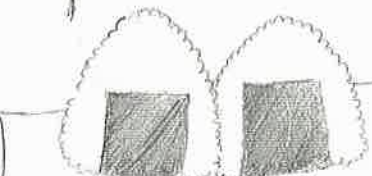
水田トラスト物語

1987年

『農薬を減らしたお米を作れないか』
という生産者への依頼から
産直米の歴史は始まりました。



合鴨農法
農業は使わず
カモが田んぼに入り
雑草を食べてくれます。



こんな
ころ

